

第29期第10回常任理事会議事要旨

日 時：1997年7月22日（火）13時30分～17時00分

場 所：気象庁内気象学会事務局

出席者：関口，二宮，藤部，住，新野，田中(博)，木田，城尾，竹村，永田 以上10名

その他の出席：事務局（館）

議 事

1. 第29期第9回常任理事会議事録の確認

2. 各委員会報告

庶務…転載許可 1件

「天気」Vol. 26 p583～594 第3図，第4図，
Vol. 33 p407～414 第2図

東京電気大学出版局より「構造物の耐風工学」
刊行のため

・後援名義等使用依頼の承認 2件

(1) 名称：第15回風工学シンポジウムの共催
日本学術会議災害工学研究連絡委員会主
催，1997年10月6～7日，日本大学キャン
パス（習志野市）

(2) 第44回風に関するシンポジウムの共催
日本気象学会を含む11学会が共催，1997年
12月16日，筑波大学大学会館，その他の共
催学協会：日本海洋学会，土木学会，日本
風工学会，日本地理学会，日本建築学会，
日本地震学会等（11学会）

・「地理学協会連合（仮称）準備会」への参加要
請 日本地理学会より 6月14日
開催地の中部支部で対応してもらおう方向で調
整することに決定。

・学術シンポジウム企画の募集（財）日本学術
協力財団より 6月18日
応募しないことに決定。

・第32回宇宙空間科学（COSPAR）総会の共同
主催決定の通知 6月20日

日本学術会議と当学会との共同主催が閣議了
解された旨。

・風工学シンポジウムの委員推薦の依頼 6月
27日

下記の推薦を決定

運営委員会委員 内藤玄一 会員 防衛大学校
地球科学科

査読委員会委員 藤井 建 会員 京都産業大
学

・科研費補助金に係わる審査員候補者の推薦
7月4日提出

常任理事会第29期第9回議事録関連

第1段審査員候補者 岩坂泰信 名古屋大学
太陽地球環境研究所

第2段審査員候補者 秋元 肇 東京大学先
端科学技術研究センター

・賛助会員に加入の依頼 「女性科学者に明る
い未来をの会」より 7月9日

現在，当学会内に強く支援を求める声がない
ので，加入は見送ることに決定。

・「酸性雪・雨に関する国際会議」（ICASR'97）
開催の案内 7月10日

新潟大学キャンパスにて，1997年10月6～8
日

・アンケート，定款，その他資料提供の依頼 日
本地質学会より 7月7日

法人化に向けての検討で，他学会の例を参考
にするため。

・電子図書館サービス利用者登録の申請状況
7月18日現在，9名

常任理事会第29期第9回議事録〔電子情報
委員会〕関連

・支部宛の資金交付 6月25日

1997年度交付金 各支部

夏季大学補助金 北海道支部，関西支部

公開気象講座補助金 中部支部

・IUGG 準備委員会活動資金の分担金払込み
6月30日

20万円：2年の内の初年分。

・平成9年度科学研究費補助金「研究成果公開
促進費」の交付決定通知 7月31日

5,210千円 文部省より。

・平成8年度科学研究費補助金「研究成果公開
促進費」の確定通知 4月30日

5,060千円 文部省より。

第17期日本学術会議会員に当学会推薦の田中
正之会員が決定の通知 7月22日

会計…1997年6月収支報告

・事務局のInternet閲覧，e-mail処理用のパン
コン7月28日に更新・整備の予定

天気…Vol. 44 No. 7（1997年7月号）掲載記事と，

同 No. 8~9号掲載予定記事の紹介.

気象研究ノート…1997年度の発行計画 (189号以降)の紹介.

189号「1993/1994年夏の異常気象」まもなく印刷校正にかかる.

教育と普及…夏季大学の受講者応募状況の報告

電子情報…気象学会ホームページ・BBS等のアクセス状況

- BBS (電子掲示板) の廃止について

学会事務局のパソコンが7月28日に更新されると、事務局から Internet にアクセスができるようになり、ホームページの「会員の広場」等を通じて会員と連絡を取ることができるようになるので、BBS を継続する必要性はなくなる.

近い将来廃止することを会員に対し広報する.

- 気象学会ホームページで英文による学会紹介文の作成

現在標記の英文を作成しており、外国向けに学会活動を紹介できるように準備中.

3. 会員加入状況

新入会員23名を承認、退会員4名の報告. 会員数4,664名 (内、通常会員4,150名).

4. 山本・正野論文賞の1997年度受賞者の決定

全理事による投票の結果、下記に決定

植田宏昭 筑波大学地球科学研究科

小林文明 防衛大学校地球科学科.

5. 堀内基金奨励賞の1997年度受賞者の決定

全理事による投票の結果、下記に決定

川村 宏 東北大学理学部大気海洋変動観測研究センター

神沢 博 国立環境研究所.

6. その他

- 気象学会による技術研修等の検討

現在、国の資格認定制度として気象予報士の導入以来数年を経て、合格者数が増加すると共にその技術水準が幅広くなっている。このため、より高い技術を目指したいとか、もう少し基礎的な技能を幅広く身につけたいなどのニーズが発生し、それに合わせた学習制度や認定制度を求める声がある。気象予報士制度とどのように整合させるのが適当か等について、今後検討していく必要があるとの問題が提起された。

支部だより

第4回中部支部公開気象講座の報告

日本気象学会中部支部では1997年8月29日(金)、名古屋市中小企業振興会館において第4回公開気象講座「生まれ変わった気象情報—『予報の原理』から『新しい気象情報』ができるまで—」を開催した.

プログラムは次のとおりである.

「天気は何故予報できるか」

田中 浩 (名古屋大学大気水圏科学研究所)

「予報ができるまでのプロセス」

坂上公平 (名古屋地方気象台)

「『予報の自由化』により気象情報がどのように変わったか」

古山享嗣 (財団法人日本気象協会)

今回の講座には、会場が満員となる約150名の参加があり、年齢別では40代を中心に10代から70代まで幅広い参加があった。また、各講演の後には活発な質疑応答がなされ、一般の方の関心の高さを感じることができた。

(中部支部)